

平成30年度 学 校 評 価 シ ー ト

学校名：和歌山県立熊野高等学校 学校長名： 鈴 木 孝 夫 印

めざす学校像 育てたい生徒像	生徒が安心して学校生活を送ることができ生徒の自己実現に向けた支援ができる学校 幅広い人間性と「自立」「共生」「挑戦」の精神を身につけて、社会貢献ができる生徒
本年度の重点目標 (学校の課題に即し、精選した上で、具体的かつ明確に記入する)	1 授業の充実と確かな学力の育成を図る。
	2 キャリア教育の定着とさらなる推進を図り、生徒の希望進路の実現を図る。
	3 地域連携の活動を通してその意義を理解し、併せて地域防災意識の向上も図る。
	4 倫理観や規範意識を高め、ルールを守り、安心安全な学校生活の実現を図る。

中期的な目標	・主体的で対話的、深い学びが実戦されるような授業作りを目指す。 ・地域連携をさらに進め、学校、地域両者が成果を共有できる win win の関係を目指す。 ・5年一貫看護師養成学校としての特色を深め、地域医療に貢献する。 ・多様な学びを保障し、夢を探し、実現に向けアプローチできる総合学科を目指す。	達成度	A	十分に達成した。 (80%以上)	
			B	概ね達成した。 (60%以上)	
学校評価の結果と改善方策の公表の方法	インターネットの熊野高等学校のホームページに掲載するとともに、全保護者、学校運営協議会会員、熊高教育協議会会員に各総会及び会報を通して公表する。		C	あまり十分でない。 (40%以上)	
			D	不十分である。 (40%未満)	

(注) 1 重点目標は3～4つ程度設定し、それらに対応した評価項目を設定する。 2 番号欄には、重点目標の番号を記入する。 3 評価項目に対応した具体的取組と評価指標を設定する。
4 年度評価は、年度末(3月)に実施した結果を記載する。 5 学校関係者評価は、自己評価の結果を踏まえて評価を行う。

自 己 評 価							
重 点 目 標					年 度 評 価 （ 3 月 4 日 現 在 ）		
番 号	現 状 と 課 題	評 価 項 目	具 体 的 取 組	評 価 指 標	評 価 項 目 の 達 成 状 況	達 成 度	次 年 度 へ の 課 題 と 改 善 方 策
1	授業は落ち着いた雰囲気 で真剣に取り組んでいる。 しかし、積極性、主体性 に欠ける部分が見受けら れる。また、家庭学習も 疎かになりがちである。 そのため教員生徒たちに 目的意識をもたせる働き かけが必要と考えられる。	教員が授業研究等 を行うことで授業 力向上を図ってい るか。 生徒の主体性向上 のための、方策が 取られているか。 科目選択等を通じ 意識向上を図って いるか。	小中高連携での授業研究を 実施し、異校種からの多角的な 視点を取り入れ各自の授業力 向上を図る。 家庭学習習慣の定着のため、 定期的な学習課題を提供しそ の内容も吟味する。。 生徒各自の進路に即した科目 選択ができるよう丁寧な指導 をおこなう。	研究授業、研究協議を実施 し、教科の枠を超えて内容 を共有できるような情報提 供の機会を確保する。 課題テストや小テストの実 施。生徒による授業評価の 実施。 科目選択を実施するうえ で、できる限り生徒の希望 が叶うよう配慮する。	計画通りの授業研究・研究 協議を実施し、各自が指導方 法の工夫や改善に努め、授業 力の向上を図った。 各教科で、その特性を生かし た課題やテストを実施した。 また、年度末には授業評価を 行い、その結果を自己及び教 科で分析し、課題を共有した。	A	指導方法の工夫・改善を し、授業力の向上を常に目指 し、研究授業・研究協議の機 会をしっかりと確保し継続し て実施していく。 テストや課題を行うことで、 家庭学習の重要性を認識さ せ、生徒の意識改革を図り、 学習習慣のより一層の定着を 目指す。
2	総合学科では、進路決定 率が 98%であった。早い 時期から進路意識を喚起 させる。更にきめ細い指 導を行い進路未定者を減 らす努力をしていきたい。 専攻科においては 37 名中 36 名の看護師国家試験合 格者を出せた。今年度は 全員の国家試験合格を目 指していきたい。また、 進学や大学編入を希望す る生徒への組織的な指導 体制を整えていきたい。	生徒の進路実現に 向けての段階的・ 系統的な取り組み が効果的になされ ているか。 生徒自身が自ら考 え行動し決定でき る進路指導がなさ れているか。 看護科 5 年間を見 通した継続的な指 導が行われている か。	進学・就職に対応できる学力 を身につけさせる。 キャリア教育を通じて勤労観 ・職業観を高める。 看護科においては卒業生の体 験談を聴いたり異学年との交 流を通して進路意識を高める。	実力テスト等での低学力者 の 10%減少。多岐にわた る進路希望への組織的な対 応と成果。 低学年からインターンシッ プや校内ガイダンスの効果 的な実施により、進路未 定者の減少。 生徒への継続的・多面的な 進路指導の実施に伴い、希 望進路の決定率の向上。	早い時期からの指導により進 路未決定者が大幅に減少した。 生徒の学力が飛躍的に向上し たというより、近年の社会 情勢に起因する部分が大きい。 インターンシップや校内ガイ ダンスの実施により生徒が 自分の将来と向き合う機会に なっている。看護科におい ても総合学科と同様、早い段階 での指導により進路先での内 定率は高かった。異学年との 交流や学年の結束力が、各々 の進路意識を高めた。	B	総合学科では、低学年より 職業理解や学校選択などの指 導をより充実させる。進学希 望者には学力検査で苦勞する 生徒も多く、そういった上中 位層の生徒に対する手立てを 教科と協力して取り組む。 看護科においても進学を希 望する生徒や就職試験でも小 論文を課せられることが増 え、専攻科 1 年の希望者に対 して、小論文講座を取り入れ て対応していく。
3	サポーターズリーダー部 をはじめ農業クラブ、吹 奏楽部、読み聞かせサー クル等において地域に貢 献する多くのボランティ ア活動を行い、さらに上 富田町と合同防災訓練を 実施する。こうした活動 の成果をさらに高めるた めに、さらに多くの生徒 ・職員の参加・協力を促 す必要がある。	ボランティア等そ の意義を理解して 参加できているか。 また、取り組みの 成果が校内で共有 化できているか。 防災訓練を通して 自らを守ることと ともに、災害時に 地域にどのような 貢献ができるかを 理解しているか。	教科・部活動等に加え、委員 会活動とも連携しながら、積 極的に地域の活動に参画する。 マンスリータイムスやアセン ブリ等の機会を利用して、地 域活動の成果を共有する。 上富田町と合同の防災訓練を 行う。消防署の指導により救 急救命訓練を行う。ホームル ームやアセンブリにおいて適 宜防災教育を行う。	全生徒の地域活動への参加 目標回数を年 3 回以上とす る。 地域での活動をホームペー ジなどに掲載し広報活動 を行う。またアセンブリ時に 積極的に取り上げる。 緊急時の退避行動を迅速に とることができる。救命措 置を適切に行うことができ る。自発的に地域連携の行 動をとることができる。	授業や部活動における地域 貢献活動や生徒会活動での定 期的な地域清掃活動に取り組 んだ。またサークル活動にお ける読み語りボランティアな どの活動も定期的に行い、高 校生の力を地域の活動に役立 てることができた。合同防災 訓練では、本校が中心となっ て様々な役割を果たし、地域 防災の担い手としての意識を 高めることができた。	A	地域貢献活動については十分 に達成できているが、さら に多くの地域貢献活動を行う ことを次年度の課題とした い。防災訓練をとおして、災 害時の地域にどのような貢献 ができるかをおおむね理解し ており、防災意識を高めるこ とができている。さらなる地 域防災の担い手としての意識 の向上を次年度の課題とした い。
4	暴力事象等大きな問題行 動も減少傾向にあるが、 SNS の利用が懸念され る。更なる挨拶、マナー 指導の充実と集団の秩序 と連帯感、学校や学年へ の帰属意識を醸成する。	挨拶、マナー(SN S も含む)指導の充 実を行い、基本的 生活習慣の確立が 行えるよう、継続 した指導を行って いく。集団の秩序 と連帯感について も常に指導する。	頭髪服装指導を行う。 新入生宿泊研修実施する。 在校生校内研修実施する。 駐輪指導実施する。 遅刻・無断欠課防止週間。 登校時自転車通学指導を行う。 SNS のマナー指導を行う。	学年アセンブリーで点検指 導の後も指導を継続する。 校内巡視及び校門指導等の 事後指導等を継続して行 う。 遅刻無断欠課防止の啓発及 び事後指導を行う。 些細な事象でも見逃さず継 続指導する。	地域貢献活動については十分 に達成できているが、さら に多くの地域貢献活動を行う ことを次年度の課題としたい。 防災訓練をとおして地域に どのような貢献ができるかを おおむね理解して。さらなる 地域防災の担い手としての意 識の向上を次年度の課題とし たい。	A	挨拶やマナー指導の大切さ を職員全体で再確認し積極的 に実践していく。 SNS のマナーについては、 研修の機会を増やしてい きたい。 社会の仕組み、厳し さを理解させ、基本的生活習慣 の大切さを再確認させ身につ くように取り組んでいく。

学 校 関 係 者 評 価
平成 31年 3月 6日 実施
学校関係者からの意見・要望・評価等
総合学科、看護科共に学習面でも実力をつけ、多方面に進学してきている。また、地域の医療看護に携わる生徒も多く排出され、災害時の貢献度も大になることは喜ばしい事と思う。地域に根ざす若者達の心のありようが将来の日本を支える大きなエネルギーになる。 本校が特に力を入れているクラブ活動においては、地域との連携活動を重視している。サポーターズリーダー部の地域活動やラグビー部の小中学生を発達段階に応じて工夫しながら指導している活動、他にも、地域の研修会でリピースが読み聞かせで「こうらいぼうし」の物語を暗唱して語り参加者に感動を与えるなどはすばらしかった。これらの取り組みや活動を熊高タイムズやホームページ等で保護者や地域住民にもっと知ってもらって欲しい。 熊高祭で初めての取り組みとして学校運営協議会委員と生徒が直接、地域連携について意見交換をした試みはすごく良かった。 運動部活動方針については世の中の流れに従うのは仕方がない。しかしながら、両方の意見があり近隣高校との状況も注視する必要だと思う。以上の意見要望があった。 これまでの、地域連携における本校の教職員の教育実践が文科省から認められ「平成30年度文部科学大臣優秀教職員表彰」を頂いた。しかし、学習面に於いては、授業態度や授業のレベルの向上を指摘する声もあり。積極的に授業改善に取り組んでいるところである。本校としては、今後より一層、地域に根ざした学校を 目指しているところであり、学校からの情報 発信に積極的に取り組んでいく所存であ る。